

授 業 計 画

科目名 人間の尊厳と自立		授業の種類 講義		授業担当者 ○篠崎良勝、高山暢子、 川向雅弘	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳と人権・福祉理念について学び、自立の概念を理解したうえで、介護実践における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を涵養する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の尊厳と人権・福祉の理念と自立の概念について学ぶ。人間の尊厳と自立の思想は、介護福祉の理論と実践の思想的な基盤であること、そしてこの思想は人間の歴史における人権と文化の発展から生まれたことを学ぶ。この思想は理念として憲法や法規範に取り入れられ、人々の幸せを保障するための国家、社会の指標となっていることを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 人間の尊厳と自立・自律の概念を理解し、身体的・精神的・社会的な自立支援について学ぶ。 2. 人間の尊厳と人権・福祉理念が社会生活の中でどのように保持される必要があるのか等、介護実践を想定しながら理解する。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：篠崎 オリエンテーション 尊厳と自立 第2回：高山 生命倫理・医療倫理について 第3回：高山 死生観について（安楽死・尊厳死・延命治療） 第4回：高山 人生の最終段階における医療・ケアについて 第5回：川向 ノーマライゼーションの発祥と優生思想 第6回：川向 私たちの身近にある優生思想 第7回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念① 災害支援から考える① 第8回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念② 災害支援から考える② 第9回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念③ ハラスメントから考える① 第10回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念④ ハラスメントから考える② 第11回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念⑤ 介護福祉という言葉 第12回：篠崎 社会福祉法から読み解く尊厳と自立 第13回：篠崎 社会福祉士法および介護福祉士法から読み解く尊厳と自立 第14回：篠崎 介護保険法から読み解く尊厳と自立 第15回：篠崎 障害者総合支援法から読み解く尊厳と自立</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 課題レポート、授業態度によって評価する。 高山先生担当 20点 川向先生担当 30点 篠崎先生担当 50点		
<p>【準備学修】 事前学習 ・シラバスに示した関連領域の書籍やネットで調べておく。（40分） 事後学習 ・授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。（40分）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉」「看護師」「社会福祉」「その他の医療福祉関連職種」など、実務経験を有する教員が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 講義		授業担当者 ○野田由佳里、福田俊子、 泉谷朋子、福重浩之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1, 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>2, 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>聖隷の基本理念である「自分のことのように、他者を考え支援する」つまり「愛の実践」を具体化する基礎となる力を養うために、演習形式も取り入れ、自己理解・他者理解、コミュニケーション力とコミュニケーション、そしてチームマネジメントの基礎を修得できる授業展開とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1, 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する。</p> <p>2, 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：野田 オリエンテーション人間関係を作る自己紹介—人間心理に基づいた自己紹介の在り方探究</p> <p>第2回：野田 情報収集・伝達とコミュニケーション—学内施設を活用したチームマネジメント力を高めるリーダーシップ及びフォロワーシップの体験的学修</p> <p>第3回：福田 自己覚知・他者理解</p> <p>第4回：福田 職場の中で用いられる多面的なコミュニケーション</p> <p>第5回：泉谷 人間と人間関係—人間関係に必要な心理の探究</p> <p>第6回：泉谷 集団とコミュニケーション—集団経営に必要なコミュニケーションの在り方</p> <p>第7回：福重 言語的コミュニケーション①—よりよい集団にするための言語的コミュニケーションとは</p> <p>第8回：福重 言語的コミュニケーション②—よりよい集団をつくる言語的技法</p> <p>第9回：福重 非言語的コミュニケーション①—よりよい集団にするための非言語的コミュニケーションとは</p> <p>第10回：福重 非言語的コミュニケーション②—よりよい集団をつくる非言語的技法</p> <p>第11回：福重 受容、共感、傾聴①—信頼関係を確立するコミュニケーションとは</p> <p>第12回：福重 受容、共感、傾聴②—信頼関係を確立するための技法</p> <p>第13回：野田 メディアを通じたコミュニケーション—メディア上でのチーム運営とは</p> <p>第14回：野田 人間関係形成のためのコミュニケーション（理論）—リーダーシップ、フォロワーシップとは何か（理論）</p> <p>第15回：野田 人間関係形成のためのコミュニケーション（実技）—リーダーシップ、フォロワーシップとは何か（実技）</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 毎回の課題レポート 30%、授業態度 20%、定期試験 50% によって評価する。		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
人間の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883907	1

【準備学修】**【授業前】**

- ・ 関連するテキストのページを事前に読む（10分）
- ・ 事前課題に回答する（10分）

【授業後】

- ・ 授業を通して学んだことを、さらにテキストや資料を読み、知識を定着させる（10分）
- ・ リアクションペーパーの記述を通して、振り返りと定着を行う（30分）

【実務経験に関する記述】

本科目は「人」に接する実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

授 業 計 画

科目名 聖隷の理念と介護福祉教育		授業の種類 講義		授業担当者 高山暢子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 聖隷学園における介護福祉専門職の教育は1978年福祉医療ヘルパー学園（ヘルパー学園略）に始まり現代に至る。ヘルパー学園は日本で最初に福祉と医療を一緒にした教育を行ったということで介護福祉教育のパイオニアである。 本科目の目的は聖隷学園における介護福祉教育を支えてくれた多くの人の生の声を聴く事で、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な学習をするとともに、介護の質を高めるためにチームマネジメントについて理解することを目的とする。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要] 聖隷学園における介護福祉教育に関わって支えてきた教職員や聖隷福祉事業団をはじめ、周辺施設の方々、卒業生などの話しから、聖隷の介護の歴史と理念を学ぶとともに人間関係の形成や介護実践におけるマネジメントについて学ぶ。</p>				
<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷学園における介護福祉専門職の教育の歴史を説明できる。 2. 聖隷学園における介護福祉専門職の教育の価値・理念を説明できる。 3. 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校で学ぶ喜びと誇りを持つことができる。 4. 対人援助に必要なコミュニケーションを理解し、介護実践において必要なマネジメント方法を理解できる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス 聖隷学園における介護福祉教育の歴史 第2回：聖隷学園における介護福祉教育と今後のビジョン 第3回：介護福祉専門職者とキリスト教 第4回：対人援助者としての視点 第5回：専門職としての役割 第6回：リスク管理 第7回：介護現場における実際① 運営管理 第8回：介護現場における実際② 人材育成 第9回：介護現場における実際③ 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎(個人) 第10回：介護現場における実際④人間関係の形成とコミュニケーションの基礎(集団) 第11回：介護現場における実際⑤ リーダーシップ 第12回：介護現場における実際⑥ チームマネジメント(理念) 第13回：介護現場における実際⑦ チームマネジメント(連携) 第14回：介護現場における実際⑧ フォロワーシップ 第15回：まとめ ※各回には、ゲストスピーカーを講師として招く。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] なし</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] レポート 70%（ルーブリックは用いない）、授業態度 30%、計 100% 再試験を実施しない。</p>		
<p>【準備学修】 配布資料を事前に確認する。（目安時間 40 分）</p>				
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は、聖隷学園における介護福祉教育を支えてくださる方々が教授する科目です。</p>				

授 業 計 画

科目名 介護福祉管理論		授業の種類 講義		授業担当者 落合克能	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として福祉サービス提供組織の運営管理を行う上で、介護の質を高めるために必要となるチームマネジメントにおいて必要となる人間関係の形成とコミュニケーションの基礎に関する知識・技術を理解することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉施設におけるサービスマネジメントを適切に行うために必要なチームマネジメントのあり方について、①介護福祉サービス提供組織の経営管理の基礎（経営理念、仕組み、組織、経営資源等）に関する理解、②人的経営資源をより効率的かつ効果的に機能させるための組織と仕組み、③介護福祉士が発揮すべきメンバーシップ（リーダーシップ・フォロワーシップ）、④それらの土台となる人間関係の形成とコミュニケーションに関する基礎に関する知識・技術に関して講義する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス提供組織のサービスマネジメントに関する基礎的知識の修得 ・適切なサービスマネジメントを行う上で必要となるチームマネジメントについて経営管理に関する視点と人間関係形成とコミュニケーションの視点で理解できるようになる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：オリエンテーション、介護サービスに関する制度の理解 第2回：介護福祉施設を経営する社会福祉法人の経営（理念、事業計画、人事・労務・財務等の管理） 第3回：サービスマネジメントに関する理解と 介護サービスの質を高めるために必要なチームマネジメントの概要 第4回：チームが機能不全に陥る要因と解決の方向性 第5回：適切なチームマネジメントに欠かせない人間関係の形成とコミュニケーション 第6回：適切なチームマネジメントに必要な記録のあり方 第7回：適切なチームマネジメントに必要な会議のあり方 第8回：適切なチームマネジメントに役立つICTの活用</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] レポート 20%、授業参加態度 30%、試験 50%の総合評価</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新介護福祉士養成講座 5	介護福祉士養成講座編集委員会 編集	中央法規出版	2200	9784805857656	1
参考図書		随時紹介			
<p>【準備学修】 授業前に予習として、授業で紹介した資料等を一読するなどしていただくこと。また、毎回授業後に当該授業内容の振り返り（リアクション）を指定の方法で行う（言語化する）ことによって、授業で学んだことを整理していただきます。※それが次回の授業準備にもなる</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験、複数の社会福祉法人、NPO法人等の経営管理に関わる経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 社会の理解 I	授業の種類 講義			授業担当者 佐藤順子、大場義貴、 佐々木正和、城戸貴史																																
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修																																
<p>[授業の目的・ねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実践に必要な知識として個・集団・社会と人間、社会保障の制度・施策について、実践的な事例を通して理解を深めることができるような授業を展開する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する 2. 生活と社会の関係性を体系的に理解する 3. 日本の社会保障の基本的な考え方について理解する 4. 日本の社会保障の仕組みについて理解する 																																				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">第 1 回：人間と社会</td> <td style="width: 30%;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：生活とは</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：ライフスタイルの変化</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：家族の機能と役割</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：人と社会、組織</td> <td>大場義貴</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：個人と社会のエンパワメント</td> <td>大場義貴</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：地域・地域社会</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：地域社会における生活支援</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：社会保障の基本的な考え方</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：日本の社会保障制度の発達</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：社会保障制度の仕組み① 社会保障の実施体制、仕組み、体系</td> <td>佐々木正和</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：社会保障制度の仕組み② 年金保険</td> <td>佐々木正和</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：社会保障制度の仕組み③ 医療保険</td> <td>城戸貴史</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：社会保障制度の仕組み④ 雇用保険、労働者災害補償保険、各種社会扶助</td> <td>佐々木正和</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：現代社会と社会保障制度</td> <td>佐々木正和</td> </tr> </table>							第 1 回：人間と社会	佐藤順子	第 2 回：生活とは	佐藤順子	第 3 回：ライフスタイルの変化	佐藤順子	第 4 回：家族の機能と役割	佐藤順子	第 5 回：人と社会、組織	大場義貴	第 6 回：個人と社会のエンパワメント	大場義貴	第 7 回：地域・地域社会	佐藤順子	第 8 回：地域社会における生活支援	佐藤順子	第 9 回：社会保障の基本的な考え方	佐藤順子	第 10 回：日本の社会保障制度の発達	佐藤順子	第 11 回：社会保障制度の仕組み① 社会保障の実施体制、仕組み、体系	佐々木正和	第 12 回：社会保障制度の仕組み② 年金保険	佐々木正和	第 13 回：社会保障制度の仕組み③ 医療保険	城戸貴史	第 14 回：社会保障制度の仕組み④ 雇用保険、労働者災害補償保険、各種社会扶助	佐々木正和	第 15 回：現代社会と社会保障制度	佐々木正和
第 1 回：人間と社会	佐藤順子																																			
第 2 回：生活とは	佐藤順子																																			
第 3 回：ライフスタイルの変化	佐藤順子																																			
第 4 回：家族の機能と役割	佐藤順子																																			
第 5 回：人と社会、組織	大場義貴																																			
第 6 回：個人と社会のエンパワメント	大場義貴																																			
第 7 回：地域・地域社会	佐藤順子																																			
第 8 回：地域社会における生活支援	佐藤順子																																			
第 9 回：社会保障の基本的な考え方	佐藤順子																																			
第 10 回：日本の社会保障制度の発達	佐藤順子																																			
第 11 回：社会保障制度の仕組み① 社会保障の実施体制、仕組み、体系	佐々木正和																																			
第 12 回：社会保障制度の仕組み② 年金保険	佐々木正和																																			
第 13 回：社会保障制度の仕組み③ 医療保険	城戸貴史																																			
第 14 回：社会保障制度の仕組み④ 雇用保険、労働者災害補償保険、各種社会扶助	佐々木正和																																			
第 15 回：現代社会と社会保障制度	佐々木正和																																			
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>				<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度：10%、定期試験：90%によって評価する。</p>																																
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																															
最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883914	1																															
参考図書	授業の中で紹介																																			
<p>【準備学修】 毎回の授業の該当箇所について、教科書で予習しておく（毎回約 20 分） 毎回の授業に関わりのあるトピックについて、新聞記事、厚生労働省の HP など調べ（各 20 分）</p>																																				
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は社会福祉や精神保健福祉士の実務経験を有する社会福祉士・精神保健福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です</p>																																				

授 業 計 画

科目名 社会の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 野田由佳里	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 高齢者の精神的・身体的特徴や障害について理解し、高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ、高齢者や障害をもつ人の人生を支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。また高齢者福祉施策と障害者福祉施策を比較し俯瞰する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解することができる。 ・ 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を捉えることができる。 ・ 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：介護の概念や対象：介護等に関する諸問題・実践構造・社会と生活のしくみ 第2回：介護の理念：高齢者の生活実態（福祉需要）介護保険法（介護保険制度を含む） 第3回：障害者福祉と障害者保健福祉制度 第4回：高齢者支援の方法と実際 第5回：高齢者を支援する専門職の役割と実際 第6回：高齢者を支援する組織と役割①：行政機関の役割・社会福祉協議会 第7回：高齢者を支援する組織と役割②：ボランティア団体・非営利民間活動 第8回：高齢者を支援する組織と役割③：地域共生社会の実現に向けた制度や施策</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 以下参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 課題レポート 40% 課題提出物 40% 授業態度 20%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883914	1
<p>【準備学修】 【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。 【事後学修】 講義後、40分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「社会福祉士」及び「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 社会の理解Ⅲ		授業の種類 講義		授業担当者 野田由佳里	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得するとともに高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] その人の生活全体を支援する力を養うために地域共生社会を理解し、高齢者福祉と介護保険制度、実践に必要な法制度について具体的な実践例を提示しながら授業を展開する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域共生社会に向けた制度や施策について基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する。 2. 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 3. 介護実践に関連する諸制度を理解する 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：地域共生社会の実現に向けた制度や施策 理念、取り組み 第2回：高齢者福祉と介護保険制度(1) 目的、背景 第3回：高齢者福祉と介護保険制度(2) 介護保険の概要、保険者と被保険者、サービスの申請 第4回：高齢者福祉と介護保険制度(3) 保険給付の対象者、保険給付の種類、介護サービスの内容 第5回：高齢者福祉と介護保険制度(4) 介護保険制度に関わる組織、団体とその役割 第6回：介護実践に関連する諸制度(1) 消費者保護制度、保健医療に関する制度 第7回：介護実践に関連する諸制度(2) 生活保護法、生活を支援する制度(1) 第8回：介護実践に関連する諸制度(3) 生活を支援する制度(2)</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 以下参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度：20%、確認テスト：60%、課題提出物：20% によって評価する。</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883914	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 （目安時間 40分）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「社会福祉士」及び「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 キリスト教概論		授業の種類 講義		授業担当者 仲 義之
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 聖書に関する基本的な知識を学ぶ。 聖書が教える「人間」、「生命の尊厳と隣人愛」の意味について学び、生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習を目的とする。社会の中で「隣人愛」を実践し、人々と共に生きていくためにはどうすれば良いのか、考える力を養う。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要] 各回のテーマに沿って講義をする。 意見交換をしながら、人々との共生、生きる喜びについて考える。</p>				
<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 「聖書」と「イエスの生涯」を通して対人援助に携わる人間としての在り方、考え方を形成する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：オリエンテーション 授業の目標、内容、課題、評価等について 第2回：聖書の理解のために 旧・新約聖書について 神と人間の関係について 第3回：旧約聖書について・・・その1 創世記「天地創造」から人間と命について 第4回：旧約聖書について・・・その2 イスラエルの歴史とモーセの十戒について 第5回：旧約聖書について・・・その3 人間の「歴史」と人間の「罪」について 第6回：旧約聖書について・・・その4 人間の「苦難」について（ヨブの生き方から考える） 第7回：新約聖書：福音書について イエス・キリストの誕生をめぐって 第8回：新約聖書：使徒言行録、書簡類について 使徒パウロの「回心」をめぐって 第9回：イエス・キリストの教えについて 聖隷の精神・隣人愛について 第10回：イエス・キリストの「奇跡物語」について 「奇跡物語」が告げる意味 第11回：イエス・キリストの「譬え話」について 「譬え話」が告げる意味 第12回：イエスの磔刑について 最後の晩餐 逮捕 裁判 十字架刑 死 埋葬 復活 顕現をめぐって 第13回：イエスの12弟子と使徒パウロについて 教会の誕生・イエスに従って生きる・世界の果てに至るまで 第14回：隣人愛について 終末（論）と再臨について 聖書が告げる「究極的な教え」：「隣人愛」の実践について 第15回：聖書の正典性について まとめ</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 『聖書』（新共同訳）日本聖書協会 『夜も昼のように輝く』聖隷学園</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] ・毎回の授業レポート。30% ・『夜も昼のように輝く』読書感想レポート：30% ・定期試験：40%</p>		

【準備学修】

聖書の通読 礼拝への出席 キリスト教関連の文献や辞書の活用。目安時間 40 分。

[実務経験に関する記述]

なし

授 業 計 画

科目名 国語表現基礎	授業の種類 講義		授業担当者 福重浩之
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代社会の基礎的問題を理解し、現代を生きる人間としての生き方や考える力を養う為の基礎的な力を身に付けることを目的に国語表現の方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本語は、普段私たちが使っている言葉であり、何となく使いこなせてしまう。ところが、この日本語は、世界で最も難しい言語の一つなのである。そんな難しい言語が何となく使いこなせる日本人は確かにすごいのだが、この何となく使っている日本語は本当に正確なもののだろうか。実は日本語にもしっかりした法則やきまりがあり、それを知ってこそ正しい日本語が話せ、書けるはずなのである。本授業では、もう一度日本語の基本から見直し、正確な日本語を学んでみたい。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>説明文、レポート、小論文などを上手に書けるようにし、学業において困ることがないようにする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：日本語表現法概説1<日本語とはどんな言葉か、何を学ぶのか> 第2回：日本語表現法概説2<日本語とはどんな言葉か2> 第3回：日本語の特徴<標準語と方言、書き言葉と話し言葉等> 第4回：日本語の言いまわし<日本語独特の表現・適切な表現> 第5回：主語と述語1<助詞「は」と「が」> 第6回：主語と述語2<助詞「が」と「を」、「も」・助動詞> 第7回：文章（文と文のつながり）1<文の接続と句読点> 第8回：文章（文と文のつながり）2<文の構造と悪文> 第9回：敬語1<敬語とは> 第10回：敬語2<敬語用法の実際> 第11回：手紙を書く<手紙の書き方と敬語> 第12回：参考文献<参考文献リストを作成する> 第13回：説明文<説明文を書く> 第14回：小論文<レポート・小論文を書く> 第15回：自分の考えをまとめ文章に表す</p>			
[使用テキスト・参考文献] 指定なし		[単位認定の方法及び基準] 毎回の提出物50%、定期試験50%。 なお、再試験は行わない。	
参考図書	授業中適宜資料を提示する。		
<p>【準備学修】 与えられた課題を解決し、次回の授業にのぞむ。</p>			
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>			

授 業 計 画

科目名 情報処理基礎		授業の種類 演習		授業担当者 津森伸一	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高度情報化社会においては、社会生活や日常生活のあらゆる場面でパソコンを初めとする情報機器の活用能力が求められる。本授業では、家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識や技術の学習の一環として、パソコンの基本操作、文書作成や情報の整理・加工を行うために必要なソフトウェアの操作方法や活用方法を習得する。また表計算処理を通して、社会生活における数学の活用事例と数学的・論理的な思考方法を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>パソコン基本ソフト及びオフィス系ソフトの代表格であるMicrosoft Windows及びMicrosoft Office (Word, PowerPoint, Excel)の基本的な操作方法を学習する。また、ビジネスレターの作成や数値データの処理、マルチメディアデータやアニメーション処理を導入したプレゼンテーションスライドの作成等、実用的な活用方法を多くの例題を通して習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンやWindowsの基本的な操作とタッチタイピングができる。 2. ワードプロソフトを用いて、ビジネス文書やパンフレットのような文書を作成することができる。 3. プレゼンテーションソフトを用いて、スライド作成やアニメーション作成を行うことができる。 4. 表計算ソフトを用いて、データ入力や基礎的な関数の利用を行うことができる。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1章 パソコン・Windowsの基本操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 パソコン・Windowsの操作方法、LMSの利用方法、タッチタイピング <p>第2章 ワードプロを用いた文書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回 Wordの基本操作 ・第3回 文書の印刷とページ設定、表の作成 ・第4回 ビジネスレターの作成 ・第5回 クリップアートやワードアート、画像などを用いた文書作成 ・第6回 パンフレット、チラシの作成 <p>第3章 プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回 PowerPointの基礎操作、スライドの作成とスライドショーの実行 ・第8回 画面切り替え、画像や図表の挿入と編集 ・第9回 オートシェイプ ・第10回 アニメーションの基礎 ・第11回 アニメーションの応用 ・第12回 プレゼンテーション課題制作 <p>第4章 表計算処理の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回 Excelの基礎操作、データの入力・編集、ブックの操作 ・第14回 表の体裁の設定、印刷方法、計算式の利用 ・第15回 関数の利用 					
[使用テキスト・参考文献] (以下に指定)			[単位認定の方法及び基準] 毎回課す提出課題により100%評価する。 なお、再試験は実施しない。		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
30時間アカデミック 30時間アカデミックOffice2021	杉本くみ子	実教出版	1300	9784407359435	1
<p>【準備学修】 次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。目安時間 40分。</p>					

[実務経験に関する記述]

本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

授 業 計 画

科目名 介護の基本 I		授業の種類 講義		授業担当者 西藤宏之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念を理解する 介護福祉士の役割と機能を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活支援に必要な倫理感を深く身に着け、科学的な個別ケアを展開できる基礎力を涵養することを主眼として授業を展開する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護福祉の基本となる理念を生活支援の視点を通して理解する。 2. 介護を必要とする人について理解し、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 3. 障がい者や高齢者の暮らしの実際を知り、介護を必要とする人の生活環境を理解する。 4. 介護福祉士の役割と機能を理解したうえで介護実践についてイメージすることができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：聖隷で介護福祉を学ぶ意義人の多様性について（価値観） 第 2 回：専門学校で介護福祉を学ぶために（介護、介護福祉の概念・定義） 第 3 回：介護福祉とは① 介護の成り立ち 第 4 回：介護福祉とは② 介護の概念の編成 第 5 回：介護福祉とは③ 介護福祉の基本となる理念 第 6 回：社会福祉と介護福祉の歴史① 1970 年代 第 7 回：社会福祉と介護福祉の歴史② 1980 年代 第 8 回：社会福祉と介護福祉の歴史③ 1990 年代から 第 9 回：社会福祉と介護福祉の歴史④ 2000 年代から 第 10 回：認知症高齢者の暮らし 第 11 回：障害のある人の暮らし 第 12 回：介護福祉士の役割と機能① 介護福祉士の活動の場と役割 第 13 回：介護福祉士の役割と機能② 社会福祉士及び介護福祉士法 第 14 回：介護福祉士の役割と機能③ 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 第 15 回：介護福祉士の役割と機能④ 事例で考える介護福祉士の役割と機能</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20%、確認テスト 60%、課題提出物 20% によって評価する。		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
介護の基本 I 第 2 版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883921	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。（目安時間 40 分）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 西藤宏之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するために、尊厳を支える介護や自立に向けた介護を理解するための学習とする。 対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけ、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 尊厳を支える介護について理解を深め、さらに自立に向けた介護について、ICFの概念やリハビリテーションとも関連づけて解説するとともに、自立支援介護の実践例も紹介しながら講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権尊重について理解を深め、QOL やノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。 2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICF やリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> 第1回：ガイダンス、介護福祉士の倫理 第2回：感情労働の理解 第3回：自立支援に向けた介護(1) 利用者本位 第4回：自立支援に向けた介護(2) エンパワメント 第5回：自立支援に向けた介護(3) 自立・自律 第6回：自立支援に向けた介護(4) 身体拘束 第7回：ストレングスへの理解について 第8回：介護におけるICFのとらえ方について 第9回：ICFを活かしたアセスメントの視点について 第10回：リハビリテーションの実際について 第11回：リハビリテーションにおける介護福祉士の役割について 第12回：自立支援介護について 第13回：介護予防について(1) 概要 第14回：介護予防について(2) 種類 第15回：まとめ					
<p>[使用テキスト・参考文献] 『最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 第2版』 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度：20%、確認テスト：60%、課題提出物：20% によって評価する。</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
介護の基本Ⅰ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883921	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。（目安時間40分）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護の基本Ⅲ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
15回	30時間 (2単位)	1年次 秋		必修 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。 介護を必要とする人の生活を理解し個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解する内容とする。 介護サービスや地域連携、フォーマル・インフォーマルな支援等の介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて理解する内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉を必要とする人の生活について説明できる ・介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを説明できる 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回 ガイダンス、専門職としての姿勢① 第2回 専門職としての姿勢② 第3回 私たちの生活の理解① 第4回 私たちの生活の理解② 第5回 介護を必要とする人の生活の理解① 第6回 介護を必要とする人の生活の理解②、小テスト① 第7回 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解、生活のしづらさの理解とその支援 第8回 生きがいに着目した生活支援① 第9回 生きがいに着目した生活支援② 第10回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ：フォーマルサービス（社会的サービス）とは 第11回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ：インフォーマルサービス（私的サービス）とは 第12回 生活を支える専門職とサービス① 第13回 生活を支える専門職とサービス② 第14回 地域連携 第15回 まとめ、小テスト②</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883938	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】 シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40 分/回）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護の基本Ⅳ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う 多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する内容とする。 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協働する多職種の役割と機能について説明できる ・ 介護従事者の安全について説明できる 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 ガイダンス、多様な人々と仕事をするということ 第 2 回 多職種連携・協働の必要性 第 3 回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力① 第 4 回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力② 第 5 回 協働する多職種の役割と機能 第 6 回 多職種連携・協働の実際、小テスト① 第 7 回 介護従事者の安全、健康管理の意義と目的 第 8 回 こころの健康管理① 第 9 回 こころの健康管理② 第 10 回 こころの健康管理③ 第 11 回 身体の健康管理① 第 12 回 身体の健康管理② 第 13 回 身体の健康管理③ 第 14 回 労働環境の整備 第 15 回 まとめ、小テスト②</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883938	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】 授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40 分／回）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」「社会福祉士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護の基本Ⅴ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明できる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回 ガイダンス、尊厳の保持と安全の確保 第2回 私たちの生活の中のリスクと対策① 第3回 私たちの生活の中のリスクと対策② 第4回 介護における安全の確保とリスクマネジメントとは何か 第5回 尊厳の保持と安全な暮らし① 第6回 尊厳の保持と安全な暮らし② 第7回 福祉サービスに求められる安全・安心、事故防止のための対策① 第8回 福祉サービスに求められる安全・安心、事故防止のための対策②、小テスト① 第9回 生活の場の安全管理 第10回 応急手当の知識と技術 第11回 災害時における生活支援 第12回 介護福祉職に必要な感染に関する知識 第13回 感染予防の技術 第14回 安全な薬物療法を支える視点・連携 第15回 まとめ、小テスト②</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883938	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】 授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40分/回）</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護の基本VI	授業の種類 講義			授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を、生活の観点からとらえるための学習をする。さらに介護福祉士が行う様々な生活支援の意義と役割について理解させるとともに、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①社会福祉士及び介護福祉士法の役割と介護福祉士の倫理について学習する。 ②利用者の人権と介護について身体拘束や虐待などいろんな方面から学ぶ。 ③プライバシーの保護の意義と介護職の役割を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して、尊厳の保持や倫理的思考で捉えることができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回 ガイダンス及び介護の基本VIの学習内容の説明と進め方「介護福祉士の職業倫理とは」 第2回 介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護 第3回 どのようにしたら利用者の人権が護れるか、小テスト① 第4回 介護実践における介護福祉士の倫理 日本介護福祉士会倫理綱領 第5回 介護実践における介護福祉士の倫理 介護福祉士の職業倫理 第6回 介護実践における介護福祉士の倫理 プライバシー保護 第7回 介護実践における介護福祉士の倫理 個人情報保護、その他 第8回 介護実践における介護福祉士の倫理 介護職が行う生活の継続性の支援、小テスト② 第9回 身体拘束禁止について(1) 第10回 身体拘束禁止について(2) 第11回 高齢者虐待について(1) 第12回 児童虐待について(2)、小テスト③ 第13回 介護福祉士の役割と機能(1) 介護福祉士の専門性 第14回 介護福祉士の役割と機能(2) 介護観 第15回 まとめ、小テスト④</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883921	1
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883938	1
参考図書		授業の中で適宜紹介する			
<p>【準備学修】 授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40分/回）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 コミュニケーション技術 I		授業の種類 講義		授業担当者 西藤宏之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人のコミュニケーションの理解を通して、利用者・家族とのコミュニケーションの技法を講義と演習を通して体感し、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養う。また介護におけるチームのコミュニケーションへの理解を深める</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護を必要とする人とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。 2. 介護におけるチームのコミュニケーション、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。 3. 介護における家族とのコミュニケーションについて考え、理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：介護を必要とする人とのコミュニケーションとは 第 2 回：介護におけるコミュニケーションの意義、目的 第 3 回：介護におけるコミュニケーションの役割 第 4 回：受容・共感・傾聴 第 5 回：利用者・家族との関係づくり 第 6 回：介護における家族とのコミュニケーション 第 7 回：利用者・家族とのコミュニケーションの実際 第 8 回：利用者の意欲を引き出す技法 第 9 回：利用者や家族の意向を引き出す技法 第 10 回：介護におけるチームのコミュニケーションや連携 第 11 回：介護における記録の意義と目的 第 12 回：記録による情報の共有化 第 13 回：報告・連絡・相談 第 14 回：会議 第 15 回：まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 授業態度：10%、確認テスト：90%によって評価する。		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
コミュニケーション技術 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883945	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40 分)</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>					

授 業 計 画

科目名 コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 西藤宏之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的理論を理解し、技術を習得します。また、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学び、障害の特性に応じたコミュニケーション実践の理論を学び技術を修得します。さらに、当事者の介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションについても学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の障害の特性に応じたコミュニケーションや、生活困難や意思疎通の在り方を理解できる。 2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践が適切に行える基礎知識や技術が身につく。 3. 介護における家族とのコミュニケーションや介護におけるチームのコミュニケーションが理解できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：ガイダンス、障害の特性に応じたコミュニケーション技法の実際 第2回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者と介護 第3回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状 第4回：感覚機能が低下している人とのコミュニケーション 第5回：失語症の特性に応じたコミュニケーション 第6回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション 第7回：視力の障害に応じたコミュニケーション 第8回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション 第9回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション 第10回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション 第11回：認知症の特性に応じたコミュニケーション 第12回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション 第13回：介護における家族とのコミュニケーションの理解 第14回：介護におけるチームのコミュニケーションの理解 第15回：まとめ</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度：10%、確認テスト：90%によって評価する。</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
コミュニケーション技術 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883945	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>					

授 業 計 画

科目名 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 ○佐野仁美、西藤宏之	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた移動の介護、ベッドメイキング、自立に向けた身じたくの介護の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身に着ける内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・生活支援について説明することができる ・自立に向けた移動の介護を行うことができる ・ボディメカニクスを応用したベッドメイキングを行うことができる ・自立に向けた身じたくの介護を行うことができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1-2回 ガイダンス、生活支援、生活支援の理解 自立に向けた移動の介護：自立した移動と一連の流れ、移動・移乗の基本的理解</p> <p>第3-4回 自立に向けた移動の介護：体位変換の介助、安楽な姿勢・体位を保持する介助</p> <p>第5-6回 自立に向けた移動の介護：車いす介助①</p> <p>第7-8回 自立に向けた移動の介護：車いす介助②</p> <p>第9-10回 自立に向けた移動の介護：車いす介助③</p> <p>第11-12回 自立に向けた移動の介護：移動・移乗のための道具・用具、歩行の介助</p> <p>第13-14回 自立に向けた移動の介護：実技確認、小テスト①</p> <p>第15-16回 休息・睡眠環境を整える(ベッドメイキング)①</p> <p>第17-18回 休息・睡眠環境を整える(ベッドメイキング)②</p> <p>第19-20回 休息・睡眠環境を整える(ベッドメイキング)③</p> <p>第21-22回 休息・睡眠環境を整える(ベッドメイキング)実技確認</p> <p>第23-24回 自立に向けた身じたくの介護：自立した身じたくとは、整容・口腔ケアの介助</p> <p>第25-26回 自立に向けた身じたくの介護：衣服の着脱の介助①</p> <p>第27-28回 自立に向けた身じたくの介護：衣服の着脱の介助②</p> <p>第29-30回 自立に向けた身じたくの介護：実技確認、まとめ、小テスト②</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883952	1
最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883969	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】 事前学修：授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えたいうで留意点と根拠を整理しておく。 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活に関連付け、繰り返し実践する。 (目安時間 40分/回)</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 ○西藤宏之、高山暢子、 野田由佳里
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。				
[授業全体の内容の概要] 「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」について、介護場面での支援方法を学ぶ。				
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 入浴・清潔保持、排泄、食事の意義と目的を理解し、基本的な支援方法について修得し、役割モデルを対象に支援を行うことができる。 自らの役割を理解し、必要に応じて他の職種と協働することを説明できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス、生活支援の理解、自立に向けた入浴・清潔保持の介護 第 2 回：入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント、さまざまな入浴介助の方法 第 3 回：入浴・清潔保持（シャワー浴） 第 4 回：入浴・清潔保持（個別浴槽） 第 5 回：入浴・清潔保持（特殊浴槽①） 第 6 回：入浴・清潔保持（特殊浴槽②） 第 7 回：入浴・清潔保持（部分浴：手浴） 第 8 回：入浴・清潔保持（部分浴：足浴） 第 9 回：入浴・清潔保持（ベッド上での洗髪） 第 10 回：入浴・清潔保持（清拭） 第 11 回：入浴・清潔保持の介護のまとめ 第 12 回：自立に向けた食事の介護、意義と目的、利用者のアセスメント 第 13 回：食事に関する基礎知識、おいしく食べることを支える介護、他の職種の役割と協働 第 14 回：脱水予防 第 15 回：食事に使用する様々な福祉用具 第 16 回：食事形態の違い講義 第 17 回：食事形態の違いによる食事介助の実際 第 18 回：ベッド上での食事の介護の技法 第 19 回：口腔ケア 第 20 回：食事の介護のまとめ 第 21 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第 22 回：自立に向けた排泄の介護、意義・目的、利用者のアセスメント 第 23 回：排泄に関する基礎知識、気持ちよい排泄を支える介護、他の職種の役割と協働 第 24 回：トイレでの排泄 第 25 回：ポータブルトイレでの排泄 第 26 回：ベッド上での排泄（尿器、差し込み便器） 第 27 回：ベッド上での排泄（オムツ①） 第 28 回：ベッド上での排泄（オムツ②） 第 29 回：実技確認 排泄の介助 第 30 回：排泄の介護のまとめ				

[使用テキスト・参考文献] 下記参照		[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、 計 100%			
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
生活支援技術Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883969	1
【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40分)					
【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					

授 業 計 画

科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 高山暢子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>さまざまな障害や疾病について、医学的・心理的側面からの理解を深めます。また、利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の能力を活用・発揮することができるようさまざまな障害の状態に応じた支援方法について根拠を踏まえて説明することができる。 2. 利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護の留意点について、説明することができる。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1- 2 回：ガイダンス、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 障害に応じた生活支援技術 (自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護)</p> <p>第 3- 4 回：肢体不自由に応じた介護</p> <p>第 5- 6 回：視覚障害に応じた介護</p> <p>第 7- 8 回：聴覚・言語障害・重複障害〈盲ろう〉に応じた介護</p> <p>第 9-10 回：心臓機能障害に応じた介護</p> <p>第 11-12 回：呼吸器機能障害に応じた介護</p> <p>第 13-14 回：腎臓機能障害に応じた介護</p> <p>第 15-16 回：膀胱・直腸機能障害・小腸機能障害に応じた介護</p> <p>第 17-18 回：HIV による免疫機能障害・肝機能障害に応じた介護</p> <p>第 19-20 回：重症心身障害に応じた介護</p> <p>第 21-22 回：知的障害・精神障害に応じた介護</p> <p>第 23-24 回：高次脳機能障害に応じた介護</p> <p>第 25-26 回：発達障害に応じた介護</p> <p>第 27-28 回：難病に応じた介護</p> <p>第 29-30 回：まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 確認テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物・小テスト 20%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第 2 版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883976	1
参考図書		下記参照			
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
生活支援技術 I 第 2 版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883952	1

生活支援技術Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883969	1
障害の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884034	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。（目安時間 40 分）</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 生活支援技術Ⅳ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する内容とする。 住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する内容とする。 介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 休息・睡眠の介護について説明できる ・ 人生の最終段階における介護について説明できる ・ 自立に向けた居住環境の整備、福祉用具の意義と活用について説明できる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1- 2 回 ガイダンス、生活支援、生活支援の理解 休息・睡眠の介護：休息・睡眠とは、 安眠をうながす介護をするために介護福祉職がすべきこと 第 3- 4 回 休息・睡眠の介護：休息・睡眠環境を整える、睡眠障害とその支援 第 5- 6 回 休息・睡眠の介護：休息・睡眠の介護における多職種との連携、小テスト① 第 7- 8 回 人生の最終段階における介護：人生の最終段階とは 第 9-10 回 人生の最終段階における介護：人生の最終段階の意義と介護の役割 第 11-12 回 人生の最終段階における介護：人生の最終段階における介護 第 13-14 回 人生の最終段階における介護：人生の最終段階の介護における多職種との連携 第 15-16 回 人生の最終段階における介護：“人生の最終段階をむかえる”を考える、小テスト② 第 17-18 回 自立に向けた居住環境の整備：住まいの役割と機能、生活空間 第 19-20 回 自立に向けた居住環境の整備：快適な室内環境、安全に暮らすための生活環境 第 21-22 回 自立に向けた居住環境の整備：災害に対する備え、高齢者・障害者の住まい 第 23-24 回 自立に向けた居住環境の整備：居住環境における多職種との連携 第 25-26 回 福祉用具の意義と活用：生活支援における福祉用具の重要性、福祉用具の種類 第 27-28 回 福祉用具の意義と活用：適切な福祉用具を選ぶための視点 第 29-30 回 まとめ、小テスト③</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883952	1
最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883969	1

参考図書	授業の中で適宜紹介する
【準備学修】	
授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40 分／回）	
[実務経験に関する記述]	
本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。	

授 業 計 画

科目名 生活支援技術Ⅴ	授業の種類 演習			授業担当者 ○佐野仁美、野田由佳里	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する内容とする。 生活支援技術Ⅰ～Ⅳのまとめを行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた家事の介護について説明できる ・生活支援技術Ⅰ～Ⅳのまとめができる 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1- 2 回 ガイダンス、生活支援、生活支援の理解、自立した家事とは（佐野） 第 3- 4 回 自立に向けた家事の介護：調理の介護の基礎知識（佐野） 第 5- 6 回 自立に向けた家事の介護：買い物、家計の管理、調理の準備（佐野） 第 7- 8 回 自立に向けた家事の介護：基本の調理（野田） 第 9-10 回 自立に向けた家事の介護：利用者に応じた調理、小テスト①（佐野） 第 11-12 回 自立に向けた家事の介護：衣服の工夫、衣服・寝具の衛生管理（佐野） 第 13-14 回 自立に向けた家事の介護：洗濯、そうじ・ごみ捨ての介助（佐野） 第 15-16 回 自立に向けた家事の介護：基本の裁縫①（佐野） 第 17-18 回 自立に向けた家事の介護：基本の裁縫②、小テスト②（佐野） 第 19-20 回 自立に向けた移動、身じたくの介護のまとめ、小テスト③（佐野） 第 21-22 回 自立に向けた食事、入浴・清潔保持、排泄の介護のまとめ、小テスト④（佐野） 第 23-24 回 感覚機能の低下に応じた介護のまとめ、小テスト⑤（佐野） 第 25-26 回 認知・知的機能の低下に応じた介護のまとめ、小テスト⑥（佐野） 第 27-28 回 運動機能の低下に応じた介護のまとめ、小テスト⑦（佐野） 第 29-30 回 休息・睡眠、人生の最終段階における介護のまとめ、小テスト⑧（佐野）</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 80%、授業態度 20%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883952	1
最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883969	1
最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883976	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】 授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40 分/回）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護過程 I		授業の種類 講義		授業担当者 野田由佳里	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>本科目では、介護過程とは何か理解を深め、介護過程の意義を学ぶ。そのうえで、介護過程の構成要素の理解を深め、最後に介護過程と生活支援の関連を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程とは何か説明できる。 ・介護過程の意義と目的について説明できる。 ・介護過程の構成要素について説明できる。 ・介護過程と生活支援の関連について説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 : 介護を学ぶ意義 第 2 回 : 介護過程とは 第 3 回 : 介護過程の意義・目的・目標 第 4 回 : 事例で考える介護過程の意義と基礎的理解(在宅) 第 5 回 : 事例で考える介護過程の意義と基礎的理解(施設) 第 6 回 : 事例で考える介護過程の意義と基礎的理解(ケアマネジメントの視点と専門職連携) 第 7 回 : 介護過程の展開プロセス・介護過程の構成要素 第 8 回 : アセスメントとは 第 9 回 : ICFに基づくアセスメント 第 10 回 : 情報の解釈とは 第 11 回 : 計画の立案・実施・評価とは 第 12 回 : 事例で考える介護過程 第 13 回 : 演習 1 「具体的な場面から、必要な知識・技術を考えてみよう」個人ワーク 第 14 回 : 演習 2 「具体的な場面から、必要な知識・技術を考えてみよう」グループワーク 第 15 回 : まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 以下参照			[単位認定の方法及び基準] 課題レポート 40% 課題提出物 40% 授業態度 20%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
<p>【準備学修】</p> <p>【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので 25 分程度は取り組むようにしてください。 【事後学修】 講義後、40 分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。</p>					
<p>[実務経験に関する記述]</p> <p>本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護過程Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 ○西藤宏之、野田由佳里	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本科目では、「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の4つの構成要素について、基礎的な知識を身に付ける。さらに事例を用いた演習により、介護過程を展開する方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントにおける留意点を説明できる。 ・目標設定における留意点を説明できる。 ・実施する際の留意点を説明できる。 ・評価をする際の留意点を説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：西藤 ガイダンス 介護過程の意義と基礎的理解 第2回：西藤 事例に対する情報収集① 第3回：西藤 事例に対する情報収集② 第4回：西藤 事例に対する情報の解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化 第5回：西藤 事例に対する計画の立案① 第6回：西藤 事例に対する計画の立案② 第7回：西藤 実施 第8回：西藤 評価 第9回：野田 事例に対する情報収集(グループ) 第10回：野田 事例に対する情報の解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化(グループ) 第11回：野田 事例に対する計画の立案①(グループ) 第12回：野田 事例に対する計画の立案②(グループ) 第13回：野田 実施(グループワーク) 第14回：野田 評価(グループ) 第15回：野田 発表(まとめ、PPの発表など)</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 課題レポート 40% 課題提出物 40% 授業態度 20%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
<p>【準備学修】 【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。 【事後学修】 講義後、40分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護過程Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。さらに、個別援助から他者理解を通して、介護過程を様々な視点から学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の展開方法について理解を深めることができる。 ・ 介護過程の実践的展開能力が身についている。 ・ 介護過程と個別援助について説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 : ガイダンス、介護過程の意義について 第 2 回 : 介護実習Ⅱ事例の振り返り① 第 3 回 : 介護実習Ⅱ事例の振り返り② 第 4 回 : 介護実習Ⅱ事例の振り返り③ 第 5 回 : 介護過程に必要な視点について 第 6 回 : 介護過程の展開の理解について① 第 7 回 : 介護過程の展開の理解について② 第 8 回 : 個別援助の理解について① 第 9 回 : 個別援助の理解について② 第 10 回 : 介護過程の実践的展開（介護老人保健施設で生活する F さんの事例）安全の視点に着目 第 11 回 : 介護過程の実践的展開（介護老人保健施設で生活する F さんの事例）自立の視点に着目 第 12 回 : 介護過程の実践的展開（介護老人保健施設で生活する F さんの事例）快適の視点に着目 第 13 回 : 介護過程の実践的展開の発表準備 第 14 回 : 介護過程の実践的展開の発表 第 15 回 : まとめ</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] ミニレポート・課題提出物 70%、授業態度 30%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
参考図書		授業の中で適宜紹介する			
<p>【準備学修】 介護過程の展開（実践）を振り返りながら、授業の進捗に沿って出される課題に取り組む。 （目安時間 40 分/回）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護過程Ⅳ		授業の種類 演習		授業担当者 西藤宏之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な介護過程とチームアプローチ、介護過程の展開の理解を行うとともに事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）の根拠を持って表現する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。</p> <p>自立に向けた介護過程の展開の実際の検討ができる。</p> <p>人間形成過程から保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身に着けることができる。</p> <p>事例研究や発表体験等を通して、根拠をふまえた報告ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回 ガイダンス、介護過程の意義と基礎的理解</p> <p>第2回 ケーススタディとは</p> <p>第3回 利用の現在、過去、未来全体像をとらえる</p> <p>第4回 実習における介護過程の振り返り：介護過程とチームアプローチ(1)</p> <p>第5回 実習における介護過程の振り返り：介護過程とチームアプローチ(2)</p> <p>第6回 ケーススタディの骨格を作成（実習記録の振り返りから情報の根拠）</p> <p>第7回 ケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか）</p> <p>第8回 ケーススタディの骨格を作成（はじめに）</p> <p>第9回 ケーススタディの骨格を作成（内容の筋書きを作る）</p> <p>第10回 ケーススタディの骨格を作成（構成を考える）</p> <p>第11回 発表会について(1)（プレゼンテーション作成）</p> <p>第12回 発表会について(2)（シュミレーション）</p> <p>第13回 介護過程の展開の理解①について(対象者の理解、アセスメント)</p> <p>第14回 介護過程の展開の理解②について(介護計画の実施)</p> <p>第15回 介護過程の展開の理解③について(介護計画の評価)</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 授業態度：20%、確認テスト：60%、課題提出物：20% によって評価する。		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
<p>【準備学修】</p> <p>事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。</p> <p>事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40分)</p>					
<p>【実務経験に関する記述】</p> <p>本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護過程Ⅴ		授業の種類 演習		授業担当者 水野公智	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本科目では、利用者の様々な事例を通し、状態や状況に応じた介護過程の展開について学び介護過程の意義についてさらに理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の暮らしは、さまざまな要因が複雑に絡み合っており成り立っていることを理解する。 2. 介護福祉士としての、介護過程の意義と基礎的な理解をする。 3. 介護過程の実践的展開を通して、生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士としての役割について明確にすることができる。 4. 事例を通して、様々な対象者の状況に応じた介護過程の展開を理解する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：ガイダンス 介護過程の意義と基礎的理解 第2回：介護福祉士の仕事の魅力 第3回：介護過程の展開の理解—事例検討 (実習で体験した事例①) 第4回：介護過程の展開の理解—事例検討 (GW：疾患の理解) 第5回：介護過程の展開の理解—事例検討 (GW：ロールプレイ準備) 第6回：介護過程の展開の理解—事例検討 (ロールプレイ) 第7回：介護過程の展開の理解—事例検討 (資料の準備) 第8回：介護過程の展開の理解—事例検討 (発表会) 第9回：介護過程の展開の理解—事例検討 (実習で体験した事例②) 第10回：介護過程の展開の理解—事例検討 (GW：疾患の理解) 第11回：介護過程の展開の理解—事例検討 (GW：ロールプレイ準備) 第12回：介護過程の展開の理解—事例検討 (ロールプレイ) 第13回：介護過程の展開の理解—事例検討 (資料の準備) 第14回：介護過程の展開の理解—事例検討 (発表会) 第15回：介護過程とチームアプローチ</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] レポート 40% 課題提出物 40% 授業態度 20%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
<p>【準備学修】 授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読し、毎授業による事前課題を作成し持参すること(40分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 ○佐野仁美、高山暢子、 西藤宏之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・介護実習Ⅰの準備をすることができる。 ・介護実習Ⅰの振り返りを行い、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合し、実習報告会へ向けてまとめることができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>実習前 第1回 ガイダンス 介護総合演習、介護実習の概要 第2回 介護実習の意義と目的、介護実習Ⅰの目的・目標の理解 第3回 専門職としての姿勢と実習の心構え 第4回 実習施設（多様な生活の場）の理解① 第5回 実習施設（多様な生活の場）の理解② 第6回 介護実践のための知識と技術の統合 第7回 実習記録の書き方 第8回 実習に必要な書類の作成① 第9回 実習に必要な書類の作成② 第10回 スーパービジョンとは 第11回 実習におけるマナー、事前訪問について</p> <p>実習中 第12回 帰校日</p> <p>実習後 第13回 介護実習Ⅰ 個別スーパービジョン 第14回 介護実習Ⅰ 振り返りまとめ 第15回 介護実習Ⅰ 実習報告会準備</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60%、授業態度 40%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】 授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく。 実習で使用する各種様式の準備を進める。（目安時間 40 分/回）</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護総合演習Ⅱ	授業の種類 演習			授業担当者 ○高山暢子、佐野仁美、 西藤宏之																																																																																					
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修																																																																																					
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う学習とする。さらに介護実践の科学的探究を図る。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅱに必要な知識や技術、介護過程の基礎の理解ができる。 2. 各領域で学習した知識や技術の統合し、介護実践につなげることができる。 3. 自分自身の学びを振り返り学びを言葉にすること、今後の課題を明確にすることができる。 																																																																																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; vertical-align: top;">実習前</td> <td style="width: 5%;">第1回</td> <td style="width: 15%;">介護実習Ⅰ</td> <td style="width: 15%;">実習報告会準備</td> <td style="width: 55%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2回</td> <td>介護実習Ⅰ</td> <td>実習報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第3回</td> <td>介護実習Ⅰ</td> <td>実習報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第4回</td> <td colspan="4">介護総合演習Ⅱの概要、介護実習Ⅱの目的・目標の理解</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第5回</td> <td colspan="4">実習施設に関する事前学習</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第6回</td> <td colspan="4">実習に必要な知識の事前学習</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第7回</td> <td colspan="4">実習に必要な書類の作成</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第8回</td> <td colspan="4">実習に必要な書類の作成</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第9回</td> <td colspan="4">生活支援技術の確認、介護実践の科学的探究</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第10回</td> <td colspan="4">実習におけるマナー、連絡、注意事項</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">実習中</td> <td>第11回</td> <td colspan="4">帰校日（第1回目）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第12回</td> <td colspan="4">帰校日（第2回目）</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">実習後</td> <td>第13回</td> <td>介護実習Ⅱ</td> <td>スーパービジョン</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第14回</td> <td>介護実習Ⅱ</td> <td>振り返り、まとめ、知識と技術の統合</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第15回</td> <td>介護実習Ⅱ</td> <td>実習報告会準備</td> <td></td> </tr> </table>						実習前	第1回	介護実習Ⅰ	実習報告会準備			第2回	介護実習Ⅰ	実習報告会			第3回	介護実習Ⅰ	実習報告会			第4回	介護総合演習Ⅱの概要、介護実習Ⅱの目的・目標の理解					第5回	実習施設に関する事前学習					第6回	実習に必要な知識の事前学習					第7回	実習に必要な書類の作成					第8回	実習に必要な書類の作成					第9回	生活支援技術の確認、介護実践の科学的探究					第10回	実習におけるマナー、連絡、注意事項				実習中	第11回	帰校日（第1回目）					第12回	帰校日（第2回目）				実習後	第13回	介護実習Ⅱ	スーパービジョン			第14回	介護実習Ⅱ	振り返り、まとめ、知識と技術の統合			第15回	介護実習Ⅱ	実習報告会準備	
実習前	第1回	介護実習Ⅰ	実習報告会準備																																																																																						
	第2回	介護実習Ⅰ	実習報告会																																																																																						
	第3回	介護実習Ⅰ	実習報告会																																																																																						
	第4回	介護総合演習Ⅱの概要、介護実習Ⅱの目的・目標の理解																																																																																							
	第5回	実習施設に関する事前学習																																																																																							
	第6回	実習に必要な知識の事前学習																																																																																							
	第7回	実習に必要な書類の作成																																																																																							
	第8回	実習に必要な書類の作成																																																																																							
	第9回	生活支援技術の確認、介護実践の科学的探究																																																																																							
	第10回	実習におけるマナー、連絡、注意事項																																																																																							
実習中	第11回	帰校日（第1回目）																																																																																							
	第12回	帰校日（第2回目）																																																																																							
実習後	第13回	介護実習Ⅱ	スーパービジョン																																																																																						
	第14回	介護実習Ⅱ	振り返り、まとめ、知識と技術の統合																																																																																						
	第15回	介護実習Ⅱ	実習報告会準備																																																																																						
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] レポート70%、授業態度30%、計100% 再試験を実施しない。</p>																																																																																						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																																																																				
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1																																																																																				
参考図書		下記参照																																																																																							
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																																																																				
介護過程 第2版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1																																																																																				
<p>【準備学修】 事前学修：介護総合演習、生活支援技術など実習に関する内容を復習する。 事後学修：講義内容を振り返り整理する。 (目安時間 40分)</p>																																																																																									
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>																																																																																									

授 業 計 画

科目名 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 ○西藤宏之、高山暢子、 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う学習とする。さらに介護実践の科学的探究を図る。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護実習Ⅲの必要な知識や技術を統合し、利用者に応じた介護過程について理解ができる 2. 個別の学習到達状況に応じた助言・指導を受け、介護計画の立案、実践、評価、修正ができる。 3. 実習を通して、具体的な介護実践の科学的探究力を養うことができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>実習前 第1回 介護実習Ⅱ 実習報告会準備 第2回 介護実習Ⅱ 実習報告会 第3回 介護実習Ⅱ 実習報告会 第4回 介護総合演習Ⅲの概要、介護実習Ⅲの目的・目標の理解 第5回 実習施設に関する事前学習 第6回 実習に必要な知識の事前学習 第7回 記録の書き方、事前訪問について 第8回 実習計画書の作成 第9回 実習におけるマナー、連絡、注意事項 第10回 地域包括支援センターについて</p> <p>実習中 第11回 帰校日（第1回目） 第12回 帰校日（第2回目）</p> <p>実習後 第13回 介護実習Ⅲ スーパービジョン 第14回 介護実習Ⅲ スーパービジョン 介護実践の科学的探求を図る 第15回 介護実習Ⅲ 振り返り、まとめ、知識と技術の統合</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] レポート70%、授業態度30%、計100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1
<p>【準備学修】 事前：介護総合演習、生活支援技術など実習に関する内容を復習する。 事後：講義内容を振り返り整理する。 (目安時間 40分)</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 演習		授業担当者 ○西藤宏之、高山暢子、 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅲで経験した事例をもとに、介護実践の科学的探求を行い質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。 2. 事例研究や発表体験等を通して、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解することができる。 3. 介護福祉職としての知識や技術の統合を行い、介護実践の科学的探究ができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回 ガイダンス ケーススタディとは 知識や技術の統合 第2回 ガイダンス ケーススタディのまとめ方 介護実践の科学的探究 第3回 事例報告会について 第4回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（実習のふり返りから情報の根拠） 第5回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか） 第6回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（テーマを決める） 第7回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（事例の情報をまとめる） 第8回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（テーマを軸にした分析を行う） 第9回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（テーマを軸にした分析を行う） 第10回 スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（構成する） 第11回 ケーススタディ発表準備 プレゼンテーション作成① 第12回 ケーススタディ発表準備 プレゼンテーション作成② 第13回 事例報告会準備 第13回 事例報告会準備 第14回 事例報告会 第15回 事例報告会</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 課題提出物 70%、授業態度 30%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2 版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1
<p>【準備学修】 事前：ケーススタディに関する内容を調べる。 事後：講義内容を振り返り整理する。（目安時間 40 分）</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護実習 I		授業の種類 実習		授業担当者 ○佐野仁美、高山暢子、 西藤宏之	
授業の回数 -	時間数(単位数) 90時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実習 I では90時間の実習を行う。 サービス担当者会議やケースカンファレンスを通じて、介護福祉士としての役割を理解するとともに、多職種協同の実践やチームケアを学ぶ内容とする。 対象者の生活と地域との関りや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援の実践を学ぶ内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の生活の場の理解ができる。 2. 本人や家族との関りから、生活支援に必要な基礎的な能力を理解することができる。 3. チームケアにおける介護福祉士の役割について理解することができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>実習開始後：施設オリエンテーション</p> <p>第1週目～第2週目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活状況全体を把握する ・地域における生活支援の実践について学ぶ ・多職種協働の実践について見学を通して理解する ・基本的な介護技術の確認を行う ・利用者の個別ケアにおける多職種協働の実践や、介護福祉士の役割の重要性を理解できる <p>* スーパービジョンを週1回行う</p> <p>実習期間中は、実習指導者や当日の実習担当者等から指導を受け、実習を進める。 実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 実習評価表 70%、実習記録 30%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1
<p>【準備学修】</p> <p>日々の実習で指導を受けたことや学んだ内容について、実習日誌・実習要項・実習計画書・テキスト等を用いて振り返り、翌日以降の実習の準備をする。（目安時間 40 分/回）</p>					
<p>[実務経験に関する記述]</p> <p>本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 介護実習Ⅱ	授業の種類 実習		授業担当者 ○高山暢子、佐野仁美、 西藤宏之		
授業の回数 -	時間数(単位数) 180時間 (4単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅱでは、180時間の実習を行う。 高齢者または障害者施設において、受け持ち利用者主体の生活と自立を支援するための介護過程の実践的な展開を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 受け持ち利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護ニーズが把握できる。 2. 受け持ち利用者の個別介護計画を立案・実践できる。 3. 個別計画の実践を行う中で、多職種協働の実践について必要性和方法が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習開始後：施設オリエンテーション 第1週目 受け持ち利用者の決定及び情報収集 第2週目 情報の解釈分析・統合 第3週目 計画立案、多職種協働の実践への理解 第3週目 計画立案及び実践 第4週目 実践、介護過程の実践的展開の理解 * スーパービジョンを週1回行う 実習期間中は、実習指導者や当日の実習担当者等から指導を受け、実習を進める。 実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う。					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 実習評価表 70%、実習記録 30%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1
参考図書		下記参照			
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
介護過程 第2版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
【準備学修】 事前：実習前、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく。 事後：介護総合演習と連動させ、実習中に学んだことを整理する。 (目安時間 40分)					
[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					

授 業 計 画

科目名 介護実習Ⅲ	授業の種類 実習		授業担当者 ○西藤宏之、高山暢子、 佐野仁美		
授業の回数 -	時間数(単位数) 180時間 (4単位)	配当学年・時期 2年次 春	必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅲでは、180時間の実習を行う。 高齢者または障害者施設において、受け持ち利用者主体の生活と自立を支援するための介護過程の展開を行う。多職種連携やチームケアを体験的に学習する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 受け持ち利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護ニーズが把握できる。 2. 受け持ち利用者の個別介護計画を立案・実践し、評価まで行うことができる。 3. 介護福祉士としての役割を理解し、多職種協働の実践ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習開始後：施設オリエンテーション 第1週目 受け持ち利用者の決定及び情報収集 第2週目 情報の解釈分析・統合、計画立案 第3週目 計画立案を通して、介護過程の実践的展開について学ぶ 第3週目 実践を通して、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践について学ぶ 第4週目 評価 *スーパービジョンを週1回行う 実習期間中は、実習指導者や当日の実習担当者等から指導を受け、実習を進める。 実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う。					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 実習評価 70%、実習記録 30%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883983	1
最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883990	1
【準備学修】 事前学習：実習前、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく。 事後学習：介護総合演習と運動させ、実習中に学んだことを整理する。 (目安時間 40分)					
[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					

授 業 計 画

科目名 発達と老化 I		授業の種類 講義		授業担当者 水野尚美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。 老化という高齢者のたどる過程を成長ととらえ、発達段階と考えることにより、介護現場で出会う高齢者の心理的身体的特徴が理解でき、適切な介護実践が可能となる基礎力を培う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得するための授業を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 人間の成長と発達の基礎的な知識を学習し、理解を深める。 2. 老年期の発達と成熟の特徴を学び老化に伴うところとからだの変化と日常生活への影響を学習する。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス 発達心理学の視点 第2回：人間の成長と発達の基礎的理解①—成長・発達とは 第3回：人間の成長と発達の基礎的理解②—人間の発達段階と発達課題 第4回：人間の成長と発達の基礎的理解③—発達と個人差 第5回：老年期の発達と成熟—老化とは 第6回：老年期の発達と成熟—老年期の発達課題の留意点 第7回：老化が及ぼす心理的影響 第8回：老いの価値観・受容—主観的幸福感、QOL・生きがいの視点 第9回：老いの価値観・受容—老年期の適応課題とパーソナリティ 第10回：高齢者のこころの問題と精神障害 第11回：要介護による高齢者の心理 第12回：老化に伴うところとからだの変化と生活 第13回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 外見上の変化・免疫機能の変化・感覚機能の変化、咀嚼機能や消化機能の変化 第14回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 循環器の機能の変化・呼吸器の機能の変化、筋・骨・関節の機能の変化・泌尿器・生殖機能の変化 第15回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響…記憶機能の変化、認知機能の変化</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 以下参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験(50%)、小テスト・課題提出物(40%)、授業態度(10%)計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884010	1
<p>【準備学修】 事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの事前学修をする。(40分) 事後学修：授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにする。(40分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 発達と老化Ⅱ	授業の種類 講義			授業担当者 高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴を学び、実際に生活する場面と関連づけ理解する。 ②老化に伴うところとからだの変化と生活への影響を理解し、生活支援の中でいつもの違いを感じとり、医療職とどのように連携するののかについて学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 高齢者の疾患と生活上の留意点ができる。 2. 高齢者に多い疾患と老化に伴うところとからだの変化と生活への影響の留意点ができる。 3. 保健医療職との連携のポイントができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス、人間の成長と発達の基礎的理解 - 高齢者と健康 - 健康長寿に向けての健康 第2回：高齢者と健康 - 高齢者の症状の特徴 第3回：高齢者と健康 - 高齢者の疾患の特徴 第4回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 骨格系・筋系 第5回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 脳・神経系 第6回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 皮膚・感覚器系 第7回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 循環器系 第8回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 呼吸器系 第9回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 消化器系 第10回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 腎・泌尿器系 第11回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 内分泌・代謝系 第12回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 歯・口腔疾患、感染症 第13回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - 悪性新生物（がん）、精神疾患 第14回：老化に伴うところとからだの変化と生活 - その他 第15回：保健医療職との連携</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 20%、授業態度 20%、確認テスト 60%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884010	1
参考図書		下記参照			
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ところとからだのしくみ 第2 版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2600		1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 認知症の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得することを目的とし、認知症の人の取り巻く状況や原因疾患、主要な症状について習得する科目である。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を学習し、認知症の原因となる疾患及び心身の変化や心理症状を理解する。さらに、認知症を取り巻く状況を理解するために、認知症のケアの歴史や理念、社会的環境についても学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の取り巻く状況を理解し、社会的環境について学ぶことができる。 2. 認知症の医学的・心理的側面に関する基礎的な知識を習得し、述べるができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回：認知症を取り巻く状況(1) 認知とは、認知症の定義について 第 2 回：認知症を取り巻く状況(2) 認知症ケアの歴史、理念 第 3 回：認知症を取り巻く状況(3) 認知症高齢者に向けた政策 第 4 回：認知症に関する主要な症状(1) 中核症状(1) 記憶障害、見当識障害 第 5 回：認知症に関する主要な症状(2) 中核症状(2) 失語、失行、失認、実行機能障害等 第 6 回：認知症に関する主要な症状(3) 周辺症状(1) 心理症状 第 7 回：認知症に関する主要な症状(4) 周辺症状(2) 行動症状 第 8 回：認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(1) 認知機能の変化が生活に及ぼす影響 第 9 回：認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(2) 認知機能の変化が心理状態に及ぼす影響 第 10 回：認知症の原因となる病気(1) アルツハイマー型認知症 第 11 回：認知症の原因となる病気(2) 脳血管性認知症 第 12 回：認知症の原因となる病気(3) レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 第 13 回：認知症の原因となる病気(4) 正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫 第 14 回：認知症の原因となる病気(5) 若年性認知症 第 15 回：認知症で行われる検査、治療</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 小テスト 20%、レポート 10%、授業態度 20%、確認テスト 50%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884027	1
<p>【準備学修】</p> <p>事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40 分)</p>					
<p>【実務経験に関する記述】</p> <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 西藤宏之	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
15回	30時間 (2単位)	2年次 春		必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症に関する知識を深めるとともに、認知症の人を中心に捉え本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する科目です。 認知症ケアの理解、認知症の人を支援する家族への支援を多職種連携の視点から学習し、実践できることを目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解し、認知症の人や家族への支援、認知症の人を支える多職種の連携・協働の在り方を学びます。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。 2. 認知症の人を支える、地域、家族の支援の在り方について理解できる。 3. 認知症の人を支える、多職種連携・協働について理解できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回：認知症の人へのかかわりの基本 第 2 回：認知症の進行に応じた介護(1) 初期の認知症への介護 第 3 回：認知症の進行に応じた介護(2) 初期の認知症への介護 第 4 回：認知症の進行に応じた介護(3) 初期の認知症への介護 第 5 回：認知症の進行に応じた介護(4) 終末期の認知症への介護 第 6 回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(1) 認知症の症状と環境の関係 第 7 回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(2) 認知症の症状別 第 8 回：認知症の人の介護過程(1) 行動の背景 第 9 回：認知症の人の介護過程(2) アセスメントの視点 第 10 回：認知症の人の介護過程(3) 介護計画 第 11 回：地域におけるサポート体制 -地域包括支援センターの役割・機能 第 12 回：地域におけるサポート体制 -ボランティア、サポーターの役割・機能 第 13 回：認知症の人を支援する多職種連携と協働 チームアプローチ 第 14 回：家族への支援の在り方(1) -家族のレスパイト 第 15 回：家族への支援の在り方(2) -家族会と介護教室</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 20%、レポート 20%、授業態度 20%、確認テスト 40%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
認知症の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884027	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40 分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 障害者福祉論		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障がいのある人の地域での生活を理解し、「障害とは何か」を探求する。障がいのある人に関わる福祉施策や利用できる社会資源を知り、当事者のみならず家族や地域を含めた環境への支援を理解する。その前提として、障害者福祉の基盤にある「ノーマライゼーション」や「自立生活」にかかわる思想・価値、人権について理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「障害」という概念形成や暮らしの歴史、障害のある人を取りまく社会環境と制度施策に焦点化し、「障害」の全体像を解説する。事例、先行文献、視覚教材等を用いて講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「障害」とは何か、「障害児・者」の定義が説明できる。 2. 障がいのある人が置かれてきた歴史を説明できる。 3. 障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。 4. 障害者総合支援法（障害者自立支援法）の意義・現状・課題が説明できる。 5. 障がいのある人への支援について、法制度とサービスの関連づけを説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：障害の基礎的理解 — 「障害者」とは誰のことか —</p> <p>第2回：障がいのある人が置かれた歴史的状況と障害者運動の歩み</p> <p>第3回：「障害（者）」の定義と概念（ICIDHとICFの特徴と問題点）</p> <p>第4回：障害者福祉の理念①（ノーマライゼーション）</p> <p>第5回：障害者福祉の理念②（自立）</p> <p>第6回：障害者関連施策と地域サポート体制①（障害者基本法）</p> <p>第7回：障害者関連施策と地域サポート体制②（雇用・住宅・教育等）</p> <p>第8回：身体に障がいのある人への支援</p> <p>第9回：知的な障がいのある人、精神に障がいのある人への支援</p> <p>第10回：障害のある人と人権</p> <p>第11回：障害者総合支援法①（理念と考え方）</p> <p>第12回：障害者総合支援法②（支援費制度以降の制度の変遷）</p> <p>第13回：障害者総合支援法③（サービス体系・財源・自己負担）</p> <p>第14回：障害者総合支援法④（サービスの実施主体と多機関連携）</p> <p>第15回：障害者総合支援法⑤（専門職の役割と家族等に対する支援）</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 小テスト 80%、授業態度 20%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884034	1
参考図書	授業の中で適宜紹介する				
<p>【準備学修】</p> <p>シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。（目安時間 40分/回）</p>					
<p>【実務経験に関する記述】</p> <p>本科目は「介護福祉士」「社会福祉士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 障害の理解		授業の種類 講義		授業担当者 井川 淳史	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識について解説する。また、チームアプローチや家族への支援については、実践例を紹介しながら講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。 2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：障害の概念と障害者福祉の基本理念 障害の概念、障害者福祉の基本理念 第2回：障害の概念と障害者福祉の基本理念 障害者福祉に関連する制度と介護保険制度 第3回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害のある人の心理 適応機制 第4回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害受容の過程、心理的支援の方法 第5回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 肢体不自由の種類と原因、特性 第6回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 視覚障害の種類と原因、特性 第7回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 聴覚・言語障害、重複障害の種類と原因、特性 第8回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 内部障害の種類と原因、特性 第9回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 重症心身障害の種類と原因、特性 第10回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 知的障害、発達障害の種類と原因、特性 第11回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 精神障害の種類と原因、特性 第12回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 高次脳機能障害の種類と原因、特性 第13回：障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 難病の種類と原因、特性 第14回：連携と協働 地域のサポート体制、チームアプローチ 第15回：家族への支援 障害のある人の家族への支援、家族の介護力の評価と介護負担の軽減</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50%、小テスト（2回実施）30%、課題提出物（授業内レポート、リアクション）20%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版	介護福祉士養成講座 編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884034	1
参考図書		授業内で随時提示			
<p>【準備学修】 ①授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40分 2～15回） ②授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40分 2～15回） ③授業内レポート（授業内で提示）を作成すること（80分）</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 ころとからだ I		授業の種類 講義		授業担当者 高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識について講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 他者をさまざまな側面から理解するために、介護実践の根拠となる人間の心理について説明できる。</p> <p>2. 他者をさまざまな側面から理解するために、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>ころのしくみの理解</p> <p>第 1 回：健康とは何か</p> <p>第 2 回：人間の欲求とは、自己実現と尊厳</p> <p>第 3 回：ころのしくみの基礎理解 (脳、認知、学習・記憶・思考、感情・情動のしくみ)</p> <p>第 4 回：ころのしくみの基礎理解 (意欲・動機づけ、適応のしくみ)</p> <p>からだのしくみの理解</p> <p>第 5 回：からだのしくみの基礎理解 (心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみ、細胞・遺伝)、体各部位の名称、内臓の名称</p> <p>第 6 回：脳・神経系の構造と機能</p> <p>第 7 回：感覚器の構造と機能</p> <p>第 8 回：呼吸器の構造と機能</p> <p>第 9 回：循環器の構造と機能</p> <p>第 10 回：消化器の構造と機能</p> <p>第 11 回：泌尿器の構造と機能</p> <p>第 12 回：骨・筋肉の構造と機能、骨・関節の動き、筋肉の動き</p> <p>第 13 回：神経系の動き、血液・体液・リンパ液の基礎的な知識</p> <p>第 14 回：内分泌器の構造と機能</p> <p>第 15 回：介護福祉職に必要な薬の知識</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 小テスト 20%、授業態度 20%、確認テスト 60%、計 100%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884003	1
参考図書	なし				
<p>【準備学修】</p> <p>事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。</p> <p>事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40 分)</p>					
<p>【実務経験に関する記述】</p> <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 ころとからだⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤美哉子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>移動、身じたくに関連したころとからだのしくみの知識について講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、移動、身じたくに関連するころとからだのしくみについて説明できる。 2. 学修したころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：移動に関連した基本的な姿勢について</p> <p>第2回：移動に関連したボディメカニクスについて</p> <p>第3回：移動に関連したころとからだのしくみ(1)-自立した生活-</p> <p>第4回：移動に関連したころとからだのしくみ(2)-背臥位から側臥位、側臥位から座位-</p> <p>第5回：移動に関連したころとからだのしくみ(3)-精神機能の低下</p> <p>第6回：移動に関連したころとからだのしくみ(4)-身体機能の低下</p> <p>第7回：移動に関連したころとからだのしくみ(5)-移動での観察ポイント-</p> <p>第8回：移動に関連したころとからだのしくみ(6)-医療職との連携のポイント-</p> <p>第9回：身じたくに関連したころとからだのしくみ(1)-口腔の観察-</p> <p>第10回：身じたくに関連したころとからだのしくみ(2)-口臭の予防と対応-</p> <p>第11回：身じたくに関連したころとからだのしくみ(3)-精神機能の低下-</p> <p>第12回：身じたくに関連したころとからだのしくみ(4)-身体機能の低下-</p> <p>第13回：身じたくに関連したころとからだのしくみ(5)-身じたくでの観察ポイント-</p> <p>第14回：身じたくに関連したころとからだのしくみ(6)-医療職との連携のポイント-</p> <p>第15回：まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 70%、授業態度 30%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884003	1
<p>【準備学修】</p> <p>授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく（40分）。</p>					
<p>【実務経験に関する記述】</p> <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 こころとからだⅢ		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤美哉子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>食事、入浴・清潔保持、排泄の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 食事、入浴・清潔保持、排泄に関連するこころとからだのしくみについて、理解できる。 2. 食事、入浴・清潔保持、排泄に関連するこころとからだのしくみについて、自らの言葉で説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：食事に関連したこころとからだのしくみ(1)-人の食事について-</p> <p>第2回：食事に関連したこころとからだのしくみ(2)-摂食嚥下の5分類と内容、治療食-</p> <p>第3回：食事に関連したこころとからだのしくみ(3)-精神・身体機能の低下-</p> <p>第4回：食事に関連したこころとからだのしくみ(4)-食事での観察ポイント-</p> <p>第5回：食事に関連したこころとからだのしくみ(5)-医療職との連携-</p> <p>第6回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(1)-入浴・清潔保持の意義、皮膚-</p> <p>第7回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(2)-陰部・肛門の清潔-</p> <p>第8回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(3)-精神・身体機能の低下-</p> <p>第9回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(4)-入浴・清潔保持の観察ポイント-</p> <p>第10回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(5)-医療職との連携-</p> <p>第11回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(1)-排泄の意義-</p> <p>第12回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(2)-尿排出と便排出のしくみ-</p> <p>第13回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(3)-精神・身体機能の低下-</p> <p>第14回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(4)-排泄での観察ポイント-</p> <p>第15回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(5)-医療職との連携-</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60% 授業態度 25% 課題提出物 15%		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884003	1
<p>【準備学修】</p> <p>授業計画に示したテキストの該当箇所を熟読しておく（40分）。</p>					
<p>[実務経験に関する記述]</p> <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 こころとからだⅣ		授業の種類 講義		授業担当者 高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて、対象者の生活を支援する観点から総合的に講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、睡眠、終末期に関連するこころとからだのしくみについて適切な用語で説明できる。 2. 学習したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第1回：休息・睡眠のしくみ 第2回：心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 - 心身機能の低下 第3回：心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 - 睡眠障害、睡眠不足が及ぼす影響 第4回：変化に気づくためのポイント - 観察・医療職との連携のポイント、緊急対応 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第5回：「死」のとらえ方（ディスカッション） 第6回：人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 - 死のとらえ方、看取りにかかわる人の価値観 第7回：人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 - 終末期（ターミナル期） 第8回：「死」に対するこころの理解 - こころの変化、受容する段階 第9回：「死」に対するこころの理解 - 家族が「死」を受容できるための支援、家族の負担軽減 第10回：終末期から危篤状態、死後のからだの理解 - 身体機能の特徴、臨終期の対応 第11回：終末期から危篤状態、死後のからだの理解 - 死後のからだの変化、死後の連絡 第12回：終末期にける医療職との連携 - 呼吸困難時・疼痛緩和時の医療と介護の連携 第13回：終末期にける医療職との連携 - 多職種連携 第14回：「死」のとらえ方（ディベート） 第15回：まとめ</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 20%、授業態度 20%、確認テスト 40%、レポート 20%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2 版	介護福祉士養成講 座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884003	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 医療的ケア I		授業の種類 講義		授業担当者 高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉の専門職に求められる医療的ケアについて基本的な知識・理論や技能を体系的に学ぶ。医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本科目では、医療的ケアに関係する制度の概要や感染予防、安全管理体制等、医療的ケア実施の基礎を学び、現在社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明することができる。また医療的ケアⅡにつなげる。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアとはどういうものか説明できる。 2. 介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について説明できる。 3. 医療的ケアを安全に実施するための医療的ケア実施の基礎について理解できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 医療的ケア実施の基礎 第 1 回：ガイダンス 医療的ケアとは 第 2 回：医行為について 第 3 回：喀痰吸引等制度（社会福祉士および介護福祉士法の改正） 第 4 回：医療的ケアと喀痰吸引等の背景 第 5 回：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 第 6 回：救急蘇生 第 7 回：感染予防 第 8 回：介護職の感染予防 第 9 回：「清潔保持と感染予防（ガウンテクニック、使い捨て手袋など）」 第 10 回：療養環境の清潔、消毒法／消毒と滅菌 第 11 回：身体・精神の健康／健康状態を知る項目／急変状態について 第 12 回：「バイタルサインの見方」 第 13 回：呼吸器系のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態 第 14 回：消化器のしくみとはたらき、消化・吸収とよくある消化器の症状 第 15 回：まとめ</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト 20%、授業態度 20%、確認テスト 60%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 1 5 医療的ケア 第 2 版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884041	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40 分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 医療的ケア II		授業の種類 講義		授業担当者 高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケアは、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）と経管栄養（基礎的知識・実施手順）を修得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 喀痰吸引・経管栄養で使用する器具・機材と保管方法について説明できる。 2. 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）・経管栄養（基礎的知識、実施手順）について説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第1回：喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引</p> <p>第2回：子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>第3回：呼吸器系の感染と予防（吸引との関連して）、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第4回：喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持</p> <p>第5回：喀痰吸引の技術と留意点（1回目）</p> <p>第6回：喀痰吸引の技術と留意点（2回目・演習）</p> <p>第7回：痰の吸引にともなうケア、報告および記録</p> <p>経管栄養（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第8回：経管栄養法とは</p> <p>第9回：注入する栄養剤に関する知識、経管栄養実施上の留意点</p> <p>第10回：子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、</p> <p>第11回：経管栄養に関係する感染と予防、経管栄養により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第12回：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持</p> <p>第13回：経管栄養の技術と留意点（1回目）</p> <p>第14回：経管栄養の技術と留意点（2回目・演習）</p> <p>第15回：経管栄養に必要なケア、報告及び記録</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 下記参照</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 課題提出物 20%、授業態度 20%、小テスト 60%、計 100%</p>		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 1 5 医療的ケア 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884041	1
<p>【準備学修】 事前：テキスト該当箇所を熟読しておく。 事後：講義内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間 40分)</p>					
<p>[実務経験に関する記述] 本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 医療的ケアⅢ		授業の種類 演習		授業担当者 ○高山暢子、向山幸子、 佐藤美哉子、富安奈緒美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）について講義を行ったうえで、シミュレーターを用いた演習を行い、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）を身につける。 2. 経管栄養（基礎的知識・実施手順）を身につける。 3. 救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）を身につける。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（喀痰吸引に必要な人体の構造と機能） 第2回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応） 第3回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（口腔内および鼻腔内） 第4回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（気管カニューレ内部） 第5回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第6回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第7回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経管栄養に必要な人体の構造と機能） 第8回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応） 第9回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（胃瘻および腸瘻による経管栄養） 第10回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経鼻経管栄養） 第11回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第12回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第13回：医療的ケア実施の基礎「救急蘇生法」 第14回：救急蘇生法をシミュレーターを用いて演習 第15回：救急蘇生法をシミュレーターを用いて演習</p>					
[使用テキスト・参考文献] 下記参照			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30%、実技試験 70%、計 100% 再試験を実施しない。		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
最新 介護福祉士養成講座 1 5 医療的ケア 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2600	9784805884041	1
<p>【準備学修】 事前：習得すべきすべての行為ごと基礎的知識と実施手順を理解すること。 事後：演習内容・実技試験を振り返り演習の改善につなげること。 （目安時間 40 分）</p>					
<p>【実務経験に関する記述】 本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					

授 業 計 画

科目名 健康長寿と運動		授業の種類 講義		授業担当者 安田智洋
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>総務省統計局の人口推計調査(2024年)において、日本の65歳以上の高齢者人口は29%を越えていると報告されている。今後さらに高齢者の割合は上昇すると見込まれ、健康長寿(介護予防)は国家の最優先課題の一つとされる。本授業では、健康長寿社会を目指す中で、“運動(身体活動)”をどのように捉えればよいのかについて、講義や実践を通じて多様な視点から学習することを目的とする。</p> <p>運動に関する知識や理解を深め、高齢者や障がい者の身体の現状について、身体活動の面から詳細に判断できる能力を養うことがねらいである。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>発展した健康長寿社会を見据え、その中で運動をどのように捉えたらよいかを学習する。授業では、身体運動の実践と併せ、様々な生理学的指標を計測しながら科学的に学習し、自分自身の健康づくりや介護福祉の現場で役立つ知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>キリスト教精神を基盤とした隣人愛について理解し、他者を尊重した行動、集団での役割を自覚して行動できる。</p> <p>自分自身の健康づくりについて深く学習できる。</p> <p>介護福祉専門職となるため、自己を律して行動できる。</p> <p>個人の体力の違いを学習し、それらに応じた運動、身体活動の実践方法を理解する。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回：講義(健康長寿と運動)〈着替え不要〉</p> <p>第2回：体力測定(質問紙、体組成、血圧、敏捷性、筋力・筋パワー、バランス能力、有酸素能力)</p> <p>第3回：有酸素運動(推定心拍数から運動強度を算出)</p> <p>第4回：つもりと実際(筋力・瞬発力の推定値と実測値の比較)</p> <p>第5回：ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル(簡易評価法など)</p> <p>第6回：卓球(運動時の心拍数・主観的運動強度の測定)</p> <p>第7回：バドミントン(運動時の心拍数・主観的運動強度の測定)</p> <p>第8回：レクリエーションスポーツ(運動時の心拍数・主観的運動強度の測定)</p> <p>* 第2回～第8回は第1体育館での授業を予定</p>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 授業評価 50%とレポート評価 50% 60点(100点中)以上に単位を認定		
<p>【準備学修】</p> <p>授業前には関連事項を予習する。授業後は授業で得られたデータをまとめ、レポートを作成しながら復習する(約40分)。</p>				
<p>【実務経験に関する記述】</p> <p>本科目は「博士(理学)、中学校教諭一種免許(理科、保健体育)、高等学校教諭一種免許(理科、保健体育)、NSCA認定CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の資格を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				

授 業 計 画

科目名 音楽		授業の種類 演習		授業担当者 二宮貴之
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業は一般教養として広く音楽に触れ、知識や技術を磨き、感性を高め教養を身に付けるための科目です。日本や世界の音楽を鑑賞し、歌唱等の音楽表現を通して広義に音楽について触れ学修する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を学び音楽の構造を捉えることができる。 2. 音楽の鑑賞を通して曲の構成や曲想について感受することができる。 3. 歌唱の活動を通してハーモニーの美しさを感じ声で表現することができる。 4. 世界の様々な音楽のジャンルに触れ比較することができる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回 : オリエンテーション 第2回 : 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 日本 ドイツ 第3回 : 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 アメリカ フランス 第4回 : 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 楽器の種類と音色 第5回 : 音楽の基礎と鑑賞 オーケストラの世界 第6回 : 音楽の基礎と鑑賞 Jポップスの世界 ジャズの世界 第7回 : 音楽の基礎と鑑賞 オペラの世界 第8回 : 映画音楽の世界</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 指定図書・資料については講義内で適宜配布します。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20%、個別課題 40%、定期試験 40%（レポート） ※個別課題では、各自のお気に入りの曲を紹介してもらいます。</p>		
参考図書	資料については講義内で適宜配布します。			
<p>【準備学修】 授業に参加するためには事前に楽譜を読む練習をしておきましょう。ト音譜表とヘ音譜表の五線譜内の階名読みができるところまでを目標として取り組みましょう。</p>				
<p>[実務経験に関する記述] なし</p>				